は・た・ら・く(≒社会参加)

若い世代の伴侶死別者 グリーフサポートの現場から思うこと

2016年10月1日 die-a-log LABO代表 朱亀佳那子 https://www.facebook.com/diealoglabo

本日の流れ

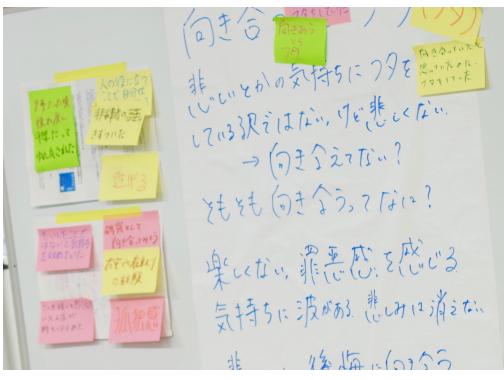
- 1 自己紹介
- 2 わたしと、「は・た・ら・く」
- 3 伴侶死別者と接するなかで感じる「は・た・ら・く」 d-LABOに出てきた「はたらく」に関連する事例・言葉



若い世代の伴侶死別当事者と 非当事者の対話の場 die-a-log LABO(ダイアログラボ)



die-a-log LABO





2014年9月~2016年9月の集計 7回実施 当事者・非当事者のべ120人参加

45歳以下の 伴侶死別者限定の 少人数の対話の場 U45カフェ部



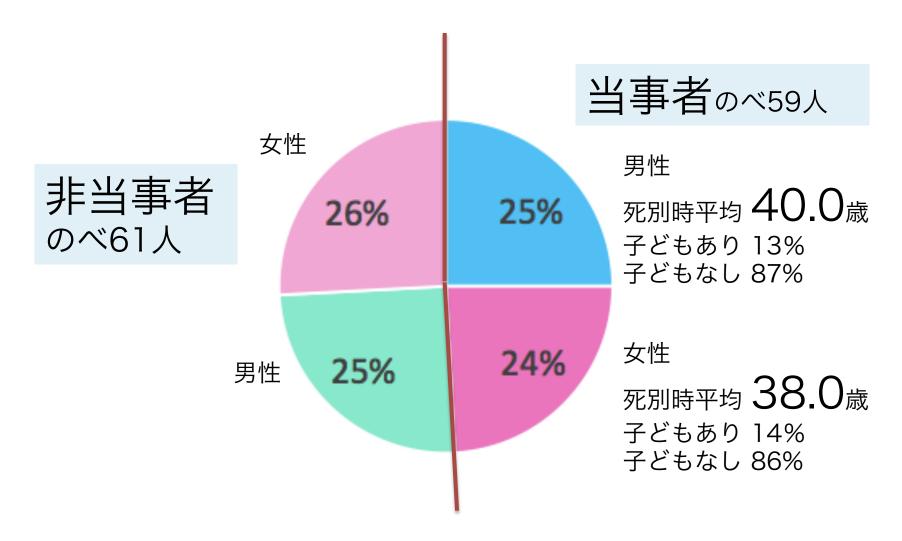




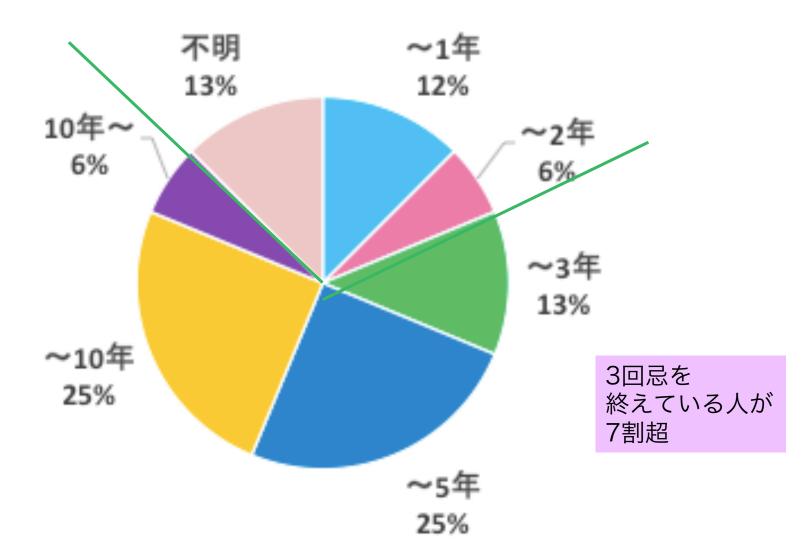


2014年10月~2016年7月の集計 6回実施のべ33人(男16、女17)参加

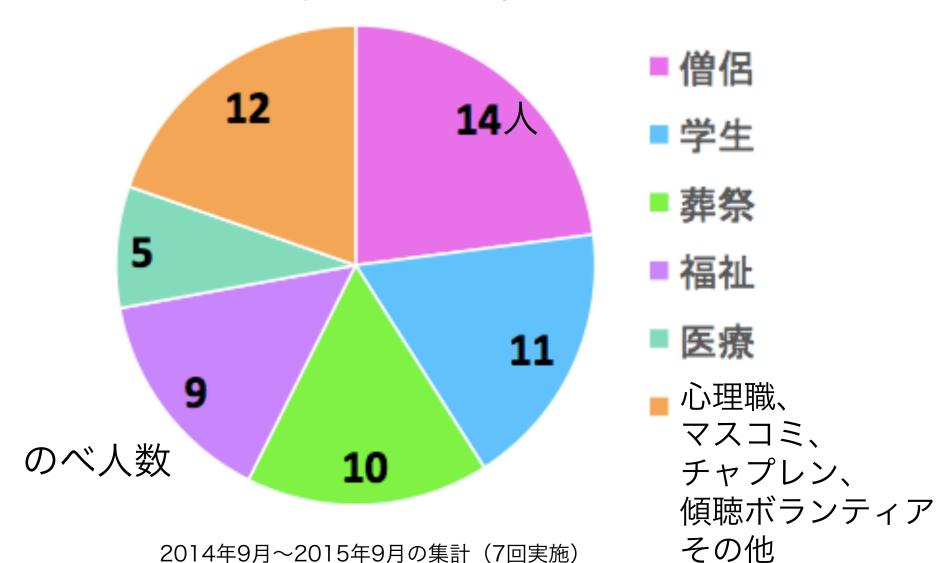
若い世代の伴侶死別者×非当事者の対話の場die-a-log LABO 当事者・非当事者 参加者の構成(※U45カフェ部を除く)



die-a-log LABO 当事者の初回参加時の死別後経過期間



die-a-log LABO 非当事者の職業



のべ61 (実数38人参加)

d-LABOに出てきた「はたらく」に関連する事例・言葉

死別前からの仕事を続けてきた人の中では...

最も多かった「うれしかった職場の対応」は

亡くなる前後、しっかりお休みをいただけたのがありがたかった。

死別前からの仕事を続けてきた人の中では...

復帰にあたって

復帰後、「元気を出して」「前を向いて」という言葉が、気持ちはありがたくてもいまの自分には辛い。

「若いのに」「気の毒に」「かわいそうに」という視線が辛くて転職。

同僚は、腫れものに触る感じ。気を遣わせて申し訳なく感じる。

死別前と変わらず接してもらえたのがありがたかった。でも、「全く何もなかった」ような態度も複雑。 一言「大変だったね」くらいがちょうどよかった。

職場の人の態度は死別前と変化なく、 恵まれていると感じる。 ただ、雑談などで家族の話がでると辛い。 死別前後、仕事量を減らしてくれて感謝。

看病・死別で消耗し、仕事量に耐えられず退職。

死別後、責任のある仕事を与えてくれたことを、 エールに感じた。 採用面接で「家族は?」とか、「死別について聞かれるかも」と思うと緊張・苦痛。

新しい職場で、どう自己紹介したらよいか。 死別したことを話すか、話さないか。

「結婚しているの?」と聞かれるのが怖くて、 先に逃げてしまう。

この体験を生かしたい。

自分のためにも、

亡くなった妻・夫のためにも。



でも、いまは苦しくてできない。 やりたいことも、何をしたらいいのかも わからない。

> 多くの伴侶死別者が 共通して語る思い

ご清聴ありがとうございました。